

平成 27 年度 第 1 回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時： 平成 27 年 6 月 25 日（木曜日） 15 時 ～ 17 時 40 分
会 場： 新潟市北区郷土博物館 図書室、郷土資料収蔵庫、横井の丘ふるさと資料館
出席委員： 8 名
阿部紀夫、伊藤裕美子、小島勝治、里村洋子、杉本耕一、田村祐一、
寺山知子、本間修一
欠席委員： 2 名
小黒 忠、鈴木 梢
傍 聴 者： なし
事 務 局： （博物館）宮崎芳春館長、神田直子学芸員、塩原賢信主査
（地域課）清水齋課長
資 料： 当日配布

会議概要

1 開会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信主査

ただいまから平成 27 年度第 1 回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。
本日は委員 8 名が出席され、会議は成立しています。
傍聴はありません。

2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宮崎芳春館長

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回は、協議会委員の改選後、初めて開く協議会です。もう少し早い時期に開催したかったのですが、5 月 2 日の常設展暫定オープン、6 月 6 日から開催している「没後 20 年 弦巻松蔭展」の準備で、開催が遅くなり、本日ようやく開催することが出来ました。本日は盛りだくさんの内容でございますが、よろしくお願ひ致します。

3 委嘱状の交付、及びあいさつ・・・・・・・・・・北区地域課長 清水齋

- ・平成 27 年 4 月 1 日付けで委嘱した新委員に委嘱状を交付。
- ・あいさつ

はじめまして。みなさまにおかれましては、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。この 4 月に総務課から地域課に参りました清水です。よろしくお願ひ致します。

旧豊栄市博物館時代から、新潟市豊栄博物館を経て、新潟市北区郷土博物館となったわけですが、これまでの豊栄中心の博物館から北区全体をカバーする博物館へとテーマや活動が拡大していております。昨年度から 3 か年計画で進められている常設展示リニューアルもその一環です。これは市民のみなさまのご意見をお聞きしながら進めていくわけで

すが、協議会委員のみなさまからは、その市民の代表として、ご助言、また忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

4 新会長・副会長の選出

・各委員の自己紹介の後、互選により会長・副会長を選出。

・会長に杉本耕一委員、副会長に寺山知子委員が、前回に引き続き推薦された。寺山委員は、副会長に伊藤裕美子委員を推薦したが、伊藤裕美子委員は、会長・副会長とも旧豊栄市域の委員となるので、旧来の新潟市域である北地区の寺山知子委員が適任であるとして推薦。満場一致で会長に杉本耕一委員、副会長に寺山知子委員が選出された。

5 新会長・新副会長あいさつ

(杉本会長) みなさんからご協力をいただきながら進めたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(寺山副会長) みなさんからお力添えをいただきつつ務めを果たしたいと思います。よろしく申し上げます。

6 議事

(杉本会長) では早速、議事に入ります。

まずは会議次第の議事(1)新潟市北区郷土博物館の概要について、博物館から説明をお願いします。

(1) 新潟市北区郷土博物館の概要について

(宮崎館長) 資料「新潟市北区郷土博物館概要」に基づいて説明

1. 基本構想(活動趣旨、テーマと機能的役割、常設展示、企画展示、普及活動、収集・保存、調査・研究)について説明。
2. 施設の概要(本館、横井の丘ふるさと資料館(分館)、郷土資料収蔵庫(合併建設計画))について説明。(横井の丘ふるさと資料館と郷土資料収蔵庫は、議事の後に見学)。
3. 新潟市北区郷土博物館収蔵資料を説明。
4. 新潟市北区の指定文化財を説明。
5. 新潟市北区の国登録有形文化財を説明。
6. 新潟市北区郷土博物館関係法律・条例・組織規則等を説明。新潟市北区郷土博物館は、博物館法に則った「登録博物館」であるため、新潟市教育委員会の所管であるが、新潟市行政組織規則により、教育委員会の事務を北区地域課職員が補助執行している現状を説明。

【質疑応答】

特になし

(2) 常設展示リニューアルの報告と今後の計画について

(宮崎館長) 資料「地域再発見事業(特色ある区づくり事業)～常設展示リニューアル～」に基づいて説明する。

- ・「阿賀北の大地と人々の暮らし」をテーマとした新しい常設展示で、5月2日から公開しています。

常設展示のテーマ、構成・内容については、昨年度、協議会で委員のみなさまからもご意見をお聞かせいただきつつ、進めました。旧新潟市北地区を含んだ「北区」は、阿賀野川の北側という特徴をもっている地域で、「阿賀北」という大きなテーマに基づいて進めてきました。展示構成については、机上の構想ではうまくいかず変更したところもあります。

向かって左手の歴史のコーナーにおいては、当初案では「葛塚市(いち)と松浜市の歴史」のセクションを設ける予定でしたが、実際のところ展示出来るような視覚的な資料がなく、「くずし字が伝える北区」というテーマに変更しています。

右手の民俗資料のコーナーでは、「水との闘い」で農具、「水のめぐみ」で漁具を展示しています。特に「水のめぐみ」では、豊栄地域では福島潟の漁、旧来の新潟市域では海の漁ということになりますが、この新潟市域の資料がありません。新潟市歴史博物館には若干ありますが、断片的です。これから資料の提供を呼び掛けるとともに、丹念に1軒1軒まわるつもりでやっていくしかないと考えています。

(宮崎館長) リニューアルに関する事業は、「区づくり予算」による3か年計画で進めています。その2年目にあたる今年度の事業について説明します。

- ・分館「横井の丘ふるさと資料館」の耐震診断について。昭和34年に旧葛塚小学校の古材を使っている建設したものです。きちんと診断していただき、もし継続してこの建物が使用可能ということであれば、どのような処置を施せば使えるのか。耐震診断の結果に基づいて、どう活用していくかということになります。
ふるさと資料館を取り壊すという状況になれば、資料は収蔵庫に入れるということになるかもしれません。そのようなことになれば、それに伴う業務が出てきます。
- ・「映像プログラム作成委託」については遠藤七郎の業績を映像としてまとめたDVDの制作を委託するものです。完成したら、常設展示室で視聴できるプログラムに加えます。また、図書館や学校にも配布する予定です。

(杉本会長) 現在の展示と今後の計画について、館長から説明をいただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

(阿部委員) 横井の丘ふるさと資料館についてですが、横井小学校が廃校になる時に、なんらかの形で残してもらいたいということで検討されたという経緯があったかと思いません。しかし、これまで本館と分館とで展示していたのが、これが使えないとなると、博物館の展示が大幅に縮小されますね。

(宮崎館長) 現在、横井の丘ふるさと資料館には、小学校3年生が、「昔の暮らし」とい

うテーマで、家のなかの「生活用具」の移り変わりを学ぶためにきています。本館の常設展示にはそのような展示はないので、ふるさと資料館が使えなくなれば、「昔の暮らし」の展示をどうするか、という問題が出てきます。

(杉本会長) これから耐震診断をするということですね。

(阿部委員) 当時から学校建築としては、危険な建物だということになっていたのですから心配しています。早く対策をとらねばなりませんね。

(杉本会長) 横井の分館での展示公開が出来なくなれば、その分を本館の方でやらねばならないのではないですか。

(宮崎館長) そうですね。そうなれば本格的に検討していかねばなりません。そのためにも、横井の分館はきちんと耐震診断をしてもらう必要があります。

(阿部委員) DVD制作の中身についての質問ですが、このテーマですと、遠藤七郎、山川健次郎のほかには前原一誠、奥平謙輔も、抜くことは出来ないのではないのでしょうか。

(宮崎館長) 制作委託するテレビ局もそのあたりは認識しているはずですが、もちろんこちらにも、委託ということで任せっぱなしにするのではなく、細かくチェックするなど、きちんと対応していきたいと思います。

(杉本会長) 何分くらいの番組ですか。

(宮崎館長) まだ内容についてもつめていないのですが、15分くらいだと思います。

(杉本会長) 常設展示室で映像展示するということになりますと、長いものは難しいですね。長いと最後まで見られない。しかしまた、それだけの内容を15分番組として収めるのは大変ですね。

(伊藤委員) 常設展示についてですが、特に旧来の新潟市域では現存する資料がなく、北区全体の漁業を俯瞰するに十分ではないとのいうことがわかりましたが、今後はどのようにしていくのですか。新たな資料は集まってきているのですか。

(宮崎館長) この展示を始めて、資料を所蔵しているという情報が何件か寄せられましたが、こちらが望んでいる、地域的な特色を示す新しい資料の情報はありませんでした。葉タバコについてですが、今、葉タバコ農家は1件しがなく、今そこで、種蒔き作業から追っているところです。廃業した農家から道具を収集できないかなと思っているところです。漁業についての収集はなかなか望めません。遺跡に関しては、新潟市に合併してからは、新潟市文化財センターが一括でやっていますので、ここで独自の収集というのは行っていません。

(伊藤委員) 南区に出来たアグリパークは、農業に関連した体験型の教育ファームですが、農具は展示されているのでしょうか。先日、行って参りまして、素晴らしい教育施設だとわかり感激したのですが、だからこそ昔の農業と比較するなど、教育的なプログラムなどで連携ができないかと思ったのです。

(清水課長) アグリパークは、今現在栽培している野菜による農業体験をすることができる場所で、昔の道具を使って体験するという性格の場ではないと思います。

(伊藤委員) 農業についての学ぶ場であるのなら、昔の道具をつかった農作業を知ってもらおうということができれば、学校の学習、博物館との連携につながる可能性もあるのではないのでしょうか。

(清水課長) アグリパークは、歴史・文化の施設ではないので、職員が企画したり対応したりするということはなかなか難しいものがあるかと思いますが、昔の道具を使ってみよう、とかそういう体験を主とする事業を行えるかということでしょうか。

(伊藤委員) 情報だけでもよいと思うのです。機械化されていない昔は、どういう道具を使ってどのくらいの作業量だったのか、どのくらいの時間を要したのか、そういう情報を、映像資料でもよいのですが、なんらかのプログラムで、博物館と連携ができるとよいのではないかと思ったのです。

(清水課長) いいアイデアだと思いますが、アグリパークがどのような方針で活動しているか、今の時点では情報不足ですので、こちらでも調べてみます。

(阿部委員) 博物館所蔵の古文書の整理の状況について教えてください。

(杉本会長) 私は、博物館から依頼されて古文書の整理を続けてきています。松浜の個人宅で調査した古文書の整理は既に終わりました。所蔵資料について言いますと、新潟市指定文化財である佐藤家文書(内沼)はもう5～6年やっていますが、それさえもまだ終わっていません。目録をとる作業は時間がかかります。一人でやっているのです、なかなか進みません。また、今は手書きで作業しているので、データ化して利用できるようにするにはまだまだ時間がかかります。

(阿部委員) 限られた人員と予算で整理するのは大変だと思います。木崎の個人宅にも古文書があると思うのですが、そういうものは対象にはならないのでしょうか。

(宮崎館長) どのような種類の文書も、どこの地域の文書も、博物館ではすべて収集・整理・調査の対象としています。しかし、古文書の調査、整理には今、杉本先生がおっしゃったようにものすごい時間がかかるのです。昭和40年代から収集されている古文書の整理がまだ終わらないというのが実情です。

(小島委員) なかなか整理が進まないのは、予算がないからですか？あるいは人手が足りないからですか？

(宮崎館長) 人員も、時間も、予算も不足しています。博物館には3万点以上の古文書がありますが、これらを活字化し、出版して活用できるレベルまで整理するという作業は並大抵のことではないのです。今、表題、作成年月日など、目録をとる作業を進めていますが、それは入口であって、その上でそこに何が書いてあるのか、というところに入っていかなければならないのです。しかし、その入口の部分で時間をとられている。その一方で、資料はどんどんたまっていく。それが現状です。

(杉本会長) 目録をとることをやっていますが、最終的にはデータ化しないと使えないのですが、デジタル化するのはまた容易なことではないのです。

(伊藤委員) それを進めていくにはどうしたらよいのですか。専門家が行う仕事だということはおわかりましたが。

(杉本会長) 人材の問題が一番です。古文書を読める人が少ないのが実情です。また、

文字を読めても専門的な判断ができないとこの作業は出来ないわけですが、そういう専門的な人材が少ないのです。

(伊藤委員) 中学生の体験学習などで少しでもふれさせるということはできないのでしょうか。専門的な作業に少しでも立ち会えるとよいかと思うのですが。

(杉本会長) 今、月1回「古文書研修会」を実施していますが、受講してテキストのくずし字を少し読めるようになったからといって、さまざまな書きぐせのある古文書を解説し、概要を目録にとるところまでには到底至らない。非常に難しく特殊な作業です。

(寺山副会長) 常設展示がリニューアルオープンしたわけですが、子供たちに展示を見せる機会はどのようにして作っていかれるのですか。北区の各学校の児童が、博物館に来て、展示の解説をしてもらいながら見学するという機会があればよいと思っています。

(宮崎館長) ようやくパンフレットを作成した段階ですので、これから学校に常設展示が変わったことを周知・説明する機会を作ろうと思っています。

(寺山副会長) 学校の事業として予定をたてて見学に行くことができるように、そして少しでも興味をもって見に来てもらえるようにしてほしいです。

(杉本会長) 学校へのPRが必要ということですね。

(宮崎館長) 「こども科学展」などのこどもの展覧会の時は、こどもたちは来ますが、学習の場としては、横井の丘ふるさと資料館へ行くわけで、こどもたちが常設展示を見にここに来るということは久しくなかったことです。

(清水課長) 当面のこととしては、7月に学校長との会合がありますので、そこでPRしたいと思います。また、夏休みには松浜地区から無料バスを運行し、ここにも停車しますので、バスで気軽に見に来ていただけるようにはするつもりです。

(寺山副会長) 解説日を設けるなど、プログラムを作っていただければ、その日をめがけて出かけることもできます。解説をしてもらって関心が深まればよいなと思います。

(本間委員) サタデー・スクールバスがここに停車しますよね。土曜日に子供がバスから降りたら、職員やボランティアが解説するという体制をつくるというのもよいと思います。また、逆の発想として、博物館の職員も、学校に出張して授業や解説などをすると、宣伝になりますよね。北区文化会館では、学校に楽器を持って行って出張授業をやっていると聞いています。

(里村委員) 解説を博物館の職員がやるというのは大変だと思うのですが、ボランティア解説というのはどうなのでしょう。

(宮崎館長) 北宝隊が地域でガイドをやっていますので、まずは北宝隊に取り組んでいただき、それから次の段階として公募するというのを考えています。

(伊藤委員) 中学生が地域のガイドをやるというのもよく紹介されていますので、まずは北宝隊さんにごんばっていただき、若い人たちにつなげていっていただければよいと思います。

(寺山副会長) 館の方からボランティアガイドの募集を広報して、集まった人を育成するのがよいのではないですか。

(宮崎館長) ガイドというのは想像以上に大変な仕事です。好きな分野だけはやるけど

それ以外はわからないからしないという困るのです。全体のことをきちんと把握した上でではないと解説はできない。ボランティアのガイドを養成するのは大変なことなのです。試行という意味で、北宝隊からやってもらい、問題点が出たらそれを考え、博物館がノウハウをつかんでからじゃないと難しいと思います。来年立ち上げ予定ですので、今年度から準備をしていこうと思っています。

(杉本会長) 展示している資料の時代のスパンも長いし、各項目もそれぞれ専門的な内容ですから大変なことですね。

(伊藤委員) 全部紹介できなくてもよいのではないですか。一つのテーマだけでもよいと思います。例えば、子供たちが学んだものを発表してもらおうというのはどうでしょうか。子供たちが学んだことを発表することが、「解説」(ガイド)となるというようなことでもよいのではないのでしょうか。

(寺山副会長) 松浜中学校は、町なかのボランティアガイドをやっています。最初はあまり興味がなかった子も多かったのですが、だんだんやっているうちに興味が出てきました。

(3) 平成 27 年度新潟市北区郷土博物館事業計画について

(神田学芸員) 資料「平成 27 年度新潟市北区郷土博物館事業予定」に基づいて説明する。

(杉本会長) 現在の展示と今後の計画について説明をいただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

(伊藤委員) 「博物館まつり」の郷土芸能発表会で神楽がありますが、神楽の記録はとられていますか。

(宮崎館長) 北区の新潟市指定文化財の神楽はすべて収録しています。万が一途絶えてしまっても、復活できるくらいのレベルで記録を取っています。DVDになっている「豊栄市の伝承芸能」はそのダイジェスト版です。

(阿部委員) 今年度最初の展覧会「没後 20 年 弦巻松蔭展」は大変意欲的な企画だったと思います。今まで何度か松蔭展が開催されていますが、今回は「模索と創作の軌跡」というテーマ設定で初期から晩年までの作品を通してみることができ、その軌跡がよくわかりました。図録では、初めての評伝が書かれ、詳細な年譜もまとめられ、博物館として意欲的な取り組みだと思いました。

(4) その他

なし

(杉本会長) これで議事を終了します。みなさま大変お疲れさまでした。

7 郷土資料収蔵庫・横井の丘ふるさと資料館の見学

*宮崎館長、神田学芸員、塩原主査の引率により、郷土資料収蔵庫と横井の丘ふるさと資料館を見学。清水地域課長同行。